

高岡 滋先生 「水俣病にみる、正しい医学情報の構築と医学界の不作為の歴史」

『メチル水銀中毒が一隠された歴史を垣間見て』

世の中にはあまりに理不尽なことが多すぎる、と日々思いながら電話相談の仕事をしている修士 1 年生です。

『第 13 回医学ジャーナリスト協会賞優秀賞』の受賞を心よりお喜び申し上げます。高岡先生が日常は在宅医をされながら長きにわたって「メチル水銀中毒」について患者さんと向きあって研究された事を 1 冊の書籍にされましたことに深く感銘いたしました。昨夜のご講義のあとに受賞式の動画を拝見しました。36 年もの長きに渡って高岡先生でしかわからないものが思いが込みあげたのだと思います。書籍を書かれる動機となった

1. メチル水銀中毒がどんな病気なのか、その性質をあきらかにする。

2. これまでの日本のメチル水銀中毒の医学界の不作為について述べる。

といった大きな目的のために、どれだけの理不尽をこれまで受けられてきたのだらうと思いを巡らわせずにはいられませんでした。

2024 年 5 月 1 日の「マイク切り事件」を、『あのことがあったから、今まで患者さんがされてきたことを広く国民に分かってもらえた』とおっしゃった時は、ハッとしました。その言葉の重さを感じたからです。高岡先生の自己紹介にも感じられたどこか哲学的な印象は、この何十年もの間、医学界で大学のトップクラスと言われる医師との戦いで生じる障壁を、自己保全するための施策だったのでしょうか。目の前に居る患者さんたちに向き合ってきた高岡先生のご講義は、大変興味深く拝聴させて頂きました。

ゼミで質問させていただいた事に対して『劇症型の症状の方は氷山の一角』『大半の患者はゆっくりと進行する』とお話してくださいました。メチル水銀による脳の神経細胞障害の性質がそうだからで、『病気は患者が教えてくれる』という患者側にたった立場で、裁判官が放った『20 年後に症状が出る事が無い』といった事に対して、裏づけをもって医師の立場から多くの事を示されたのだと思います。

「日本衛生学雑誌」2023 年に投稿された二塚・衛藤・内野教授の「『水俣病の医学の責任』を読んで」を読みました。それに反論された 2024 年の「書評『水俣病と医学の責任』を読んでの回答」も拝読いたしました。「一万人検診」の件は、衛藤教授らが「そもそも対象地域の母集団が不明確で、多くの非専門医によって行われており、各地の個人ないし集団診断の寄せ集めに過ぎない」と放ったことに対して約 1 ページ近くにわたり丁寧に返信されています。ここにはすでに 1 万人の証言者がいるわけですから、素人の私が拝読しても高岡先生が返信された回答に真実を感じました。9 つの疑問点に関して丁寧に回答されているのに、お三方からは未だに返信はないのでしょうか。

仙台にある東北労災病院にも居られた石原信夫教授の 2014 年の「情報無視が続いた水俣病原因解明の歴史」も拝読いたしました。1935 年の Kurland 氏の報告や、水俣のチツソ創業者(野口 尊氏)が 1932 年にドイツ法によるアセトアルデヒドを生産する時点で、すでに水銀中毒の事は知り得ていた可能性が高いのではないかという事、高岡先生もお話になられたなぜ「メチル水銀中毒」という名称ではなく「水俣病」になったのかという興味深い話も再度知り得ることができました。

今回の高岡先生のご講義で多くの学びがありました。更に興味ぶかい所を学ばせていただいた事で更なる刺

激になりました。不作為の大元は行政なのだと思います。認定患者を増やさないための施策だったり、真実が隠されたり、そのようなことをして人々が守られるのでしょうか？

『私たちは、なんのために仕事をしているのか？』高岡先生が投げかけられた直球を受け止めました。(公害ではないけれど)根強い偏見や差別を作り、患者やその家族の尊厳を深く傷つけた「ハンセン氏病」や稀にある副作用の存在を公表しない「HPV ワクチン」接種のCMなどもそうですが、行政や製薬会社、企業に忖度してしまった事で、本来の業務に目をつぶることにならないよう、私たち一般人も、一人一人が世の中の事柄に関心を持って関わらなければならないことを強く思いました。

昨夜の関東は、あいにくの豪雨だったようです。放課後のご移動は大変だったのではないのでしょうか？水俣から来てくださったのに、大歓迎の雨嵐でした。雨の日は腰の痛みも増しますね。

どうか、これからも自己保全をしっかりと守った上で、きずなを大切に過ごされますように。「困難に対する心構え」は、今の私には有効な活力になります。何度も読み返しをさせて頂きました。お礼を申し上げます。仙台からいつもエールを送らせて頂きます。ありがとうございます。

新井聖子 修士1年 仙台市在住 女性相談支援員